

ISSN 1344-6436

外国語学会誌

FOREIGN LANGUAGE JOURNAL

No.37

清水 泰子教授
玉井美穂子教授

御定年退職記念号

大東文化大学外国語学会

FOREIGN LANGUAGE JOURNAL No.37 (2007)

Contents

§ Preface	YAMAZAKI Shunji	
§ Profile of Professor SHIMIZU Yasuko		1
By OTSUKI Minoru, SEKIGUCHI Itsuko		
§ Profile of Professor TAMAI Mihoko		7
By SEKIGUCHI Itsuko		
§ Articles		
Experiences of Teaching Japanese	Mihoko TAMAI	13
On the Relationship between “ <i>shanglai, shangqu</i> ” and Spatial Noun From the Point of View of Word Connectivity	TAKAHASHI Yasuhiko	21
The Study of Adv+NP Construction in Modern Chinese (Part I)	Miao Xiaofang & Zhang Jie	39
Theories of the relationship between the cultural connotation in Chinese words and the teaching of Chinese as a foreign language	Wang xiao man	55
Passing the third and fourth level of the Chinese step test ~ grammar questions on the written test ~	TAKESHIMA Tsuyoshi	71
Chinese language studied by PC	LAI Akira	83
On the Relation Between Compound Directional Complement “Chu(出)” and Locative Object	OGURIYAMA Kei	99
A Study of Chinese Conditional Sentence	DuoRongNa	109
The space of LiYu’ s poem	Zhang Yan bo	131
English Input and Output: A Reconsideration	Patrick McCoy	151
J.M. Barrie’ s Mary Rose Revisited	Michio Tajima	157
Meaning of Phrases “ <i>shikata-ga-nai</i> ” , “ <i>yamu-wo-e’nai</i> ” : A Study on the Expressions of Feeling	Hiroshi TANAKA	173
The Changes of Aestheticism — Focus on Salome —	Zhang Chong	191
Looked from human relations “praise” about expression The analysis such as a TV program of Japanese and Chinese, a drama or the movie scenario	Yeh hueichun	201
The Function of Affixes di-, ter-, ke- -an A study of compound verbs of “ <i>kiru</i> ” “ <i>nuku</i> ” “ <i>toosu</i> ” in Japanese	OMATA Yoshihiro	211
in Indonesian Passive Voice	Hermansyah Djaya	223
On the meaning of the Japanese-origin words in Korea	SEO Yunyi	239
An acoustic analysis of dialogue in plays	KOJIMA Asami & FUKUMORI Takahiro	259
§ Materials		
A Study of the Opera “ <i>Qiuzi</i> ” and Huang Yuan Iuo	Seki Hiroshi	281
A Study of the “Tea Ceremony”	Sekiguchi Itsuko	297
Japanese / Korean comparison about the name between relatives	OH SOOHYUN	307
One consideration of the possibility expression which is seen in editorial of the newspaper	Lee Yi Ching	325
§ Essays		
Get the degree of Doctor and train Doctoral course	Teramura Masao	337

インドネシア語の受動の意味を表す 接辞 (di-, ter-, ke- -an) の機能

The Function of Affixes di-, ter-, ke- -an in Indonesian Passive Voice

ヘルマンシャー ジャヤ
Hermansyah Djaya

0. はじめに

インドネシア語には di-, ter-, ke- -an という接辞で使い分けられる3種類の受動表現がある。接頭辞 di- をつける di- 構文は日本語の直接受身と類似している。接頭辞 ter- をつける ter- 構文は日本語の無意識「知らずに～する」・自発「ふと～する、突然」・可能「～ことができる」・完了「～てしまった」に類似している。共接辞 ke-an をつける ke-an 構文は日本語の間接受身(被害・迷惑受身)に類似している。それぞれの例を挙げる。

(di- 構文)

- (1) Ari dipukul Indra.

アリ di-殴る インドラ

アリはインドラに殴られた。

(ter- 構文)

- (2) Kamus saya terbawa oleh Indra ke sekolah. (Hasan Alwi 2003)

辞書 私 ter-持って行く ～によって インドラへ 学校

私はインドラに辞書を持って行かれる(持って行ってしまった)。

(ke- -an 構文)

(3) Dia kedatangan tamu. (森村 1992)

彼/彼女 ke- 来る -an 客

彼は客に來られた。

上の例は、di- 構文は直接受身、ke- -an 構文は第三者の受身・持ち主受身、ter- 構文は、日本語の無意識、可能、完了に共通性があることを表している。これらの3種類の受動表現の意味と機能を説明する。

1. 接頭辞 di- (di- 構文)

接頭辞 di- は接頭辞 meng- と密接な関係がある。Sulchan Yasin (1988), Gorys Keraf (1991), M Ramlan (2001), Abdul Chaer (2006) によると、接頭辞 di- は受動の意味、受動態を表し、接頭辞 meng- は能動の意味、能動態を表す。接頭辞 meng- を持っている他動詞の能動態は接頭辞 di- に換えることによって、全て受動態になる。

接頭辞 meng- の付いている能動態	接頭辞 di- の付いている受動態
membaca : 読む	dibaca : 読まれる
menulis : 書く	ditulis : 書かれる
membangun : 建てる	dibangun : 建てられる
melihat : 見る	dilihat : 見られる
mencari : 探す	dicari : 探される
mengambil : 取る	diambil : 取られる

接頭辞 di- を付ける動詞は受動態の意味を表し、逆に、接頭辞 meng- を付ける動詞は能動態の意味を表すため、接頭辞 meng- を付ける動詞が、他動詞ではない場合、対応する受動態を持っていない。

(4) 自動詞

menangis : 泣く → *ditangis

melawak : おどける → *dilawak

menyatu : 一つになる → *disatu

形容詞

mendatang : 来たるべき → *didatang

menengah : 真ん中 → *ditengah

受動態では、動作主は接頭辞 di- の付いた動詞の後ろに現われる。

(5) Majalah itu dibaca kakak. (Abdul Chaer,2006)

雑誌 その di-読む 兄

その雑誌は兄に読まれた。

(6) Buku ini ditulis oleh Profesor Sasaki.

本 この di-書く 〜によって 先生 佐々木

この本は佐々木先生によって書かれた。

2. 接頭辞 ter- (ter- 構文)

接頭辞 ter- を付ける動詞は接頭辞 di-、接頭辞 meng- を付ける他動詞と密接な関係がある。一般的には接頭辞 meng- を付ける他動詞は接頭辞 ter- に変化することが多い。

接頭辞 meng-	接頭辞 di-	接頭辞 ter-
membawa : 持つ	dibawa : 持たれる	terbawa : 持って行かれる
menyelesaikan : 解決する	diselesaikan : 解決される	terselesaikan : 解決される (可能の意味を表す)
menjual : 売る	dijual : 売られる	terjual : 売り切る
mengganti : 取り換える、交換する	diganti : 取り換えられる、 交換される	terganti : 取り換えてしまう、 交換してしまう。

接頭辞 ter- について、多くの研究がある。それぞれの研究で接頭辞 ter- を付ける受動態の意味は同じではない。例えば : Gorys Keraf (1980)、G. Sitindaon (1984)、Abdul Chaer (2006) によれば、接頭辞 ter- を付ける受動態は完了、自発、無意識、可能の意味を持っている。J.S Badudu (1985) によれば、接頭辞 ter- を付ける受動態は完了と状態を表す意味を持っている。M.Ramлан

(2001)、ドミニクスバタオネ (2003) によれば、接頭辞 ter- を付ける受動態は完了、無意識、可能の意味を持っていると結論づけることができる。接頭辞 ter- を付ける受動態は完了、無意識、可能の意味を持っているだけで、自発は受動態ではないと考えられる。Gorys Keraf, G. Sitindaon, Abdul Chaer は ter- を付ける受動態の意味として、自発をあげているが、自発は受動態ではないと思われる。なぜならば、受動態は文中における名詞の機能(主語、目的語、補語)が変わる。

(7) a. Ibu memarahi Budi. → 母はブディを叱る。(能動態)

母 meng-叱る-I ブディ



a'.Budi dimarahi Ibu. → ブディは母に叱られる。(受動態)

ブディ di-叱る -i 母

b. Adi mengangkat peti yang berat. → アディは重い箱を持ち上げる。(能動態)

アディ meng-持ち上げる 箱 重い



b'.Peti yang berat terangkat oleh Adi. → 重い箱はアディに持ち上げられる (ter-受動態)

箱 重い ter-持ち上げる ~によって アディ

(7 の a と b) では主語と目的語が変わっている。一方、自発は文中における主語、目的語が変わらない。

(8) a.Saya selalu mengingat kebaikan hati kawan saya yang

私 いつも meng-思い出す

親切

友達 ~たことがある

pernah menolong saya.

助けて

私

私は助けてくれた友人の親切をいつも思い出している。

b. Saya selalu teringat kebaikan hati kawan saya yang

pernah menolong saya.(Bataone,2003)

私を助けてくれた友人の親切が、私にはいつも思い出される。

(8) の文は主語、目的語が変わらないので、自発の意味を持つ接頭辞

ter- は受動態ではない。

以上のことから、自発を除いて、接頭辞 ter- を付ける動詞の大部分は受動態の意味を表す。以下に示すように、3つの受動態の意味は無意識、可能、完了である。動詞の種類によって、どの意味が中心になるかによって、動詞は3つのグループに分けられる。

①無意識

このタイプは無意識または不作為の動作を表すことである。この場合は「oleh orang (人によって)」を加えなければならない。

(9)a. Kamus saya terbawa oleh Indra ke sekolah. (Hasan Alwi, 2003)

辞書 私 ter- 持って行く ～によって インドラへ 学校

私はインドラに辞書を持って行かれる (持って行ってしまった)。

b. Kamus saya dibawa (oleh) Indra ke sekolah.

辞書 私 di- 持って行く ～によって インドラへ 学校

私はインドラさんに辞書を持って行かれた。

(9a) の文は接頭辞 ter- を使っている文は、インドラさんはわざとではなく (知らずに) 辞書を持って行く動作を行ったことを示している。(9b) の接頭辞 di- を使っている文はインドラさんは故意に私の辞書を学校へ持って行く動作を行ったことを示している。接頭辞 di- を使う場合は「oleh orang (人によって)」を加えることもできるし、加えないこともできる。接頭辞 ter- を使う文は、形態的には対応する能動文が接頭辞 meng- を使う文であるが、意味的には対応する能動文に「tidak sengaja (わざとではない)」という言葉を入れなければならない。

(9)' a. Kamus saya terbawa oleh Indra ke sekolah. (受動文)

辞書 私 ter- 持って行く ～によって インドラへ 学校

私はインドラに辞書を持って行かれる (持って行ってしまった)。

b. Indra tidak sengaja membawa kamus saya ke sekolah. (能動文)

インドラ わざとではない meng- 持っていく 辞書 私へ 学校

②可能

G. Sitindaon (1984), Hasan Alwi (2003) によると、可能の意味を表す接頭辞 ter- は、一般的に動詞の前に否定の意味を表す語が現れる。

(tidak/tak) terbeli : 買える (買えない)

(tidak/tak) terjangkau : 手が届く (手が届かない)

(tidak/tak) terdengar : 聞こえる (聞こえない)

(tidak/tak) diangkat : 持ち上げられる (持ち上げられない)

(10) Rumah semahal itu tidak terbeli oleh pegawai menengah.

家 それほど高い 否定 ter-買う ~によって 中堅サラリーマン

(バタオネ 2003)

それほど高い家は、中堅サラリーマンには買えなかった。

(11) Tulisan sekecil ini sudah tidak terbaca oleh kakek.

字 小さい この もう 否定 ter-読む ~によって お祖父さん

(Abdul Chaer, 2006)

こんな小さい字はお祖父さんによって読めない。

インドネシア語では可能の表す接頭辞 ter- は否定 (tidak/tak) の文で多く使われている。それは強調の意味を表す。しかし、述語動詞の前に否定を表す語が付かない場合にも可能である。

(12) Barang obralan itu harganya terjangkau oleh mahasiswa asing.

バーゲン品 その 値段 ter-手が届く ~によって 留学生

そのバーゲン品は留学生にも手が届く。

③完了

このタイプは過去のある時点において、出来事が起こり、この結果の状態は今も続いていることを表している。接頭辞 ter- を使う文は完了の意味を表す場合、oleh orang 「人によって」を加えることができない。

(13) Di dalam ruang kelas itu terpasang tulisan “dilarang merokok”.

～に 中 教室 その ter-掲げる 字 禁煙

(バタオネ 2003)

その教室の中には、「禁煙」掲示が掲げられている。

接頭辞 ter- を使う (13) の文は過去に出来事が起こり、動作主は必要ではなくて、結果の状態を表すだけである。

他の例：(14) a. Pintu itu tertutup. (J.S Badudu, 1985)

ドア その ter-閉まる

そのドアが閉まっている。

b. Pintu itu ditutup.

ドア その di-閉まる

そのドアが閉まる (そのドアが閉まっている)

接頭辞 ter- を使う (14a) の文はプロセスが終了した状態を表す。しかし、接頭辞 di- を使う (14b) の文はプロセスが終了したことも可能だが、まだ続いている状態を表すことも可能である。

3. 接頭辞 di- と接頭辞 ter- の比較

インドネシア語では受動態を形成する場合、接頭辞 ter- と接頭辞 di- は文中で使い方の違いがある。以下に違いを説明する。

① ter- 受動態は動作主を必要としないことが多い、di- 受動態は動作主を必要とすることが多い。

(15) Kepalanya terpukul pada saat dia lengah. (Sulchan Yasin, 1987)

頭 彼/彼女 ter-殴る ～しているとき 彼/彼女 うっかりする

彼がうっかりしているときに、頭を殴られてしまった。

(16) Rencananya telah tersusun dengan rapih. (Sulchan Yasin, 1987)

計画 彼/彼女すでに ter-整理 きちんと

彼の計画はきちんと整理されている。

上の例では接頭辞 ter- を使っている文は動作を行っている「殴る」と「整

理する」の動作主が現れないことを示す。上の文で重要なことは動作の結果である。あるいは受動態には動作の結果が現れることが多い。

(17) Kepalanya dipukul Indra.

頭 彼/彼女 di-殴る インドラ

彼はインドラに頭を殴られた。

(18) Rencana Itu dapat diselesaikan penduduk dengan rapih.

計画 その できる di-解決する 住民 きちんと

その計画は住民に解決されていた。

接頭辞 di- を使っている文は動作主（インドラ、住民）が現れるということを示し、あるいは di- 受動態の文には動作主が必要なので、動作主は表れることが多い。

②接頭辞 ter- を使う受動態は動作の結果を表すことが多い、一方、接頭辞 di- を使う受動態は動作の継続を表すことが多い。

(19) a. Dalam operasi penertiban itu ikut terciduk

治安運動で ter-逮捕する

beberapa anak perempuan.(M.Ramlan 2001)

その 何人かの 女の子

治安運動で何人かの女の子が逮捕されてしまった。

b. Dalam operasi penertiban itu ikut diciduk

治安運動で その di-検束する/逮捕する

beberapa anak perempuan.

何人かの 女の子

治安運動で何人かの女の子が逮捕されている。

(19a) の接頭辞 ter- を使う文は状態が解決したことを表し、あるいは状態の結果を表す。(19b) の接頭辞 di- を使う文は動作の状態は、まだ続いている。あるいは、動作がまだ解決していないことを表す。

③接頭辞 ter- を使う文は無意識または不作為の動作を表すことが多い。一方、接頭辞 di- を使う文は故意の動作を表すことが多い。

- ④接頭辞 ter- を使う文は可能の意味を表すことがあるが、一方、接頭辞 di- を使う文は可能の意味を表すことがない。
- ⑤ J.S Badudu (1985) によると、接頭辞 ter- を付ける動詞は動作主の前に、「oleh」の言葉を加えなければならない。一方、接頭辞 di- を付ける動詞は動作主の前に、「oleh」の言葉を加えることもできるし、加えないこともできる。

4. 共接辞 ke- -an (ke- -an 構文)

G. Keraf (1980), J.S Badudu (1985) によると共接辞 ke- -an は名詞を形成する機能を持っている。その他に状態を表すことがある。状態を表すとき、被害・迷惑の意味が加わる。

(20) Pada musim hujan desa kami sering kebanjiran.

～に 雨季 村 私たちいつも ke-洪水-an

(Abdul Chaer, 2006)

私たちの村は雨季になると、いつも洪水の被害を受けている。

共接辞 ke- -an は状態を表すと、被害・迷惑の意味を表している。
kebanjiran は「洪水を受ける」すなわち被害・迷惑を受けるという意味を表す。

接頭辞 di- と接頭辞 ter- の外に、受動を形成する機能を持っている接辞は共接辞 ke- -an である。しかし、共接辞 ke- -an は受動を形成する意味が被害・迷惑の意味を表している。上で述べたように、接頭辞 di- は日本語の直接受身と類似性があり、接頭辞 ter- は3つの意味（無意識、可能、完了）を持っている。共接辞 ke- -an は受動態を形成するために、語基となる動詞の数は限られていて、また名詞や形容詞も使われる。意味的には状態を表すことと同じである。すなわち、被害・迷惑の意味である。

(21) Pak Adi kecurian mobil.

アディさん ke-盗む-an 車

アディさんは車を盗まれてしまった。

上の例ではアディさんは出来事の動作主ではなく、被動者である。車

は補語で、誰かに盗まれたものである。この文では主語はアディさんであり、その出来事の結果、アディさんは被害を受けた。

ke- -an 構文は二つの意味を持っている。一つはある状態が主語に被害をもたらすことであり、もう一つはある出来事が起こり、主語に被害をもたらすことである。主語に現れる名詞には、有生名詞や持ち物などの名詞がある。インドネシア語では、被動者の持ち物は「desa (村) kami (私たち)、celana (ズボン) -nya (彼 / 彼女の)」の形で表現される。持ち主が現れないときは、被害の意味がない。

ke- -an 構文における「状態を表す」と「出来事が起こる」

ke- -an 構文の意味	主語	例文
状態を表す	無生名詞 (持ち物)	Pada musim hujan desa kami sering <u>kebanjiran</u> . (Abdul Chaer, 2006) (私たちの村は雨季に、いつも洪水の被害を受けている)
	無生名詞 (持ち物)	Karena musim kemarau yang panjang, daerah kami <u>kekurangan</u> air. (長い乾季が起きた結果、私たちの地域は水が不足している)
	有生名詞 (被動者)	Indra <u>kehujanan</u> . (インドラは雨に降られた)
出来事が起こる	有生名詞 (被動者)	Pak Adi <u>kecurian</u> mobil. (アディさんは車を盗まれてしまった)
	無生名詞 (持ち物)	Rumahnya <u>kemasukan</u> maling. (彼の家は泥棒に入られた)
	無生名詞 (持ち物)	Celananya <u>ketumpahan</u> kopi. (Hasan Alwi, 2003) (彼のズボンはコーヒーをこぼされた)

状態を表すのは災害など自然の力である。出来事が起こることを表すのは人間の動作 (行為) である。名詞と形容詞の kebanjiran (洪水を受ける)、

kehujan (雨に降られる)、kelaparan (飢える)、kemalaman (日が暮れてしまう)、kekurangan (不足している) などを使う ke- -an 構文は状態を表し、動詞の kecurian (盗まれる)、kemasukan (入られる)、kedatangan (来られる) などを使う ke- -an 構文は出来事が起こることを表す。

森村 (1992) によると、共接辞 ke- -an は利害 (多くの場合被害) の受動を形成する意味を持っているが、日本語の間接受身 (第三者の受身) と類似性があると述べられている。湯浅章子 (2002) によると、共接辞 ke- -an は能動文に含み得ない構成要素の数を一つ増やしており、その故、対応関係にある能動文がないという点や、自動詞であっても受身を構成することができるという点、また、ある独立した事象が起こることにより、その事象の生起とは別個に存在している第三者が間接的に利害 (多くの場合は被害) を受けるという意味構造上の特徴を持っている点において、日本語の「第三者の受身」と共通していると述べられている。したがって、日本語の第三者の受身はインドネシア語の ke- -an 構文と意味の点で類似していて、共通性がある。北原保雄他編 (1985)「日本文法事典」によると、「第三者の受動態」とは、能動態の文に含まれていない (含みようのない) 第三者が、受動化によって、主語の位置に立つことになったものであるとされる。

次の例を見てみよう。

(22) 彼は雨に降られた。 ← 雨が降った。

(23) 彼は子供に死なれた。 ← 子供が死んだ。

(24) 彼は客に来られた。 ← 客が来た。

この日本語の第三者受身は インドネシア語の ke- -an 構文と共通性が存在する。上の例はインドネシア語に対訳ができる。

(22)' Dia kehujan. ← Hujan.

彼/彼女 ke-雨-an 雨が降る (雨が降った)

(23)' Dia kematian anak (nya). ← Anak (nya) mati.

彼/彼女 ke-死ぬ-an 子供 (彼の) 子供 (彼の) 死ぬ

(24)' Dia kedatangan tamu. ← Tamu datang.

彼/彼女 ke-来る-an 客 来る

このタイプの受動文では、日本語の場合もインドネシア語の場合もある独立した事象が起きて第三者（主語の位置に立つもの）が利害（多くの場合、被害）を受けるという意味構造の特徴を持っている。上の例は、「彼は雨に降られた」、「彼は子供に死なれた」、「彼は客に來られた」という第三者受身は能動態に訳したら、「雨が降る」、「子供が死んだ」、「客が來た」という独立した事象が起きて、主語の位置に立つものである「彼」が被害を受けるという意味を表す。

5. 共接辞 ke- -an の特徴

共接辞 ke- -an は受動態を形成する場合、動詞だけではなく、名詞と形容詞からも作ることができる。例：

- (25) Rumahnya kemasukan maling. (動詞)

家 彼/彼女 ke-入る-an 泥棒

彼の家は泥棒に入られた。

- (26) Aku kesiangan sehingga tidak sempat makan sahur tadi malam.

私 ke-昼-an 間に合わない 夜半過ぎの食事 昨夜

(森村、1992) (名詞)

僕は朝寝坊をして、昨夜の夜半過ぎの食事（断食期間中の）をとっていない。

siang は「昼」という名詞であるが、kesiangan は「寝坊する」と、動詞の意味が変化する。kesiangan は状態を表し、「困る（迷惑を受ける）」という意味である。

- (27) Badannya penuh dengan keringat karena dia kepanasan.

体 彼/彼女 まみれ ~で 汗 から 彼/彼女 ke-暑い-an

(Sandyosaka) (形容詞)

彼の体は暑さで汗まみれになった。

panas と kepanasan に、使い分けがある。panas は性質、すなわち api「火」、cuaca「天気」、badan「体」などの時に使っている。kepanasan は性質から

影響を受けて、困る（被害を受ける）、という使い方である。

上の例は共接辞 ke- -an (ke- -an 構文) は迷惑・被害の影響を受ける意味を表し、名詞、動詞、形容詞から受動表現が形成できることを示した。

受動を形成する場合に、共接辞 ke- -an はいくつかのパターンを持っている。

ke- -an 構文の特徴

語基	受身の種類	文型	例文
名詞	第三者の受身	ke- + 名詞 + -an	Bajunya basah karena dia <u>kehujan</u> an. (雨に降られたので私の服が濡れている)
			Karena tersesat kami <u>kemalaman</u> di hutan. (迷子になったため、私たちは森の中で行き暮れてしまった)
形容詞	第三者の受身	ke- + 形容詞 + -an 「～ので困る」という意味を持っている。	Hari ini sangat <u>panas</u> . (今日はとても暑い) Badannya penuh dengan keringat karena dia <u>kepanasan</u> . (彼の体は暑さで汗まみれになった)
			Mereka beristirahat di sebuah kafe karena <u>kehausan</u> dan <u>kecapean</u> sehabis berjalan-jalan. (歩き回って疲れ果てたし、喉が渴いたので、彼はカフェで休憩した)
自動詞	持ち主受身	物 + 所有者 + 自動詞 →所有者 + ke- 動詞 -an + 物	Kaca mata saya <u>hilang</u> . (私の眼鏡がなくなった) Saya <u>kehilangan</u> kaca mata. (私は眼鏡を失くしてしまった)
	第三者の受身	動者主 + 自動詞 →被動者 + ke- 動詞 -an + 動者主	Tamu <u>datang</u> . (客が来た) Saya <u>kedatangan</u> tamu. (私は客に來られた)
		動者主 + 自動詞 + ke- + 持ち物 + 持ち主	Maling <u>Masuk</u> ke rumah saya. 泥棒 入るに 家 私 (泥棒は私の家に入った)
		持ち物 + 持ち主 (被動者) + ke- 動詞 -an + 動者主	Rumah saya <u>kemasukan</u> maling. 家 私 ke- 入る -an 泥棒 (泥棒は私の家に入られた)
他動詞	持ち主受身	物 + 所有者 + di- 動詞 →所有者 + ke- 動詞 -an + 物	Mobil Pak Banu <u>dicuri</u> . (バヌさんの盗まれた) Pak Banu <u>kecurian</u> mobil. (バヌさんは車を盗まれてしまった)
		補語を省略することができる	a. Dia <u>kecopetan</u> ponsel di bus. (彼女はバスでケータイをスラれてしまった) b. Dia <u>kecopetan</u> di bus. (彼女はバスでスリに遭った) c. Seseorang <u>mencopet</u> di bus. (誰かがバスですりをした)

(例文は Sandynosaka (2007) から引用した)

①名詞と形容詞を使う共接辞 ke- -an は日本語の第三者受身と共通性がある。

②自動詞を使う共接辞 ke- -an は日本語の持ち主受身、第三者の受身と共通性がある。例：kehilangan（持ち主受身）、kemasukan（第三者受身）

③他動詞を使う共接辞 ke- -an は非常に例が少なく、ほとんど kecurian（盗まれる）、kecopetan（掏られる）しかない。上の例のように、kecurian と kecopetan は持ち主受身である。

④動詞を使う ke- -an 構文は di- 構文に置き換えられるものがあるが、意味は同じであるけれども、ニュアンスが違う。

持ち物 + di- 動詞 -i + 名詞 → 持ち物 + ke- 動詞 -an + 名詞

(28) a. Rumahnya dimasuki maling. (彼の家は泥棒に入られた)

b. Rumahnya kemasukan maling. (彼の家は泥棒に入られた)

di- 構文を使う文は、事実の状態を伝えるだけであるが、ke- -an 構文を使う文は被害・迷惑の意味を表す。ke- -an 構文は対応する能動文がない。

⑤他動詞を使う ke- -an 構文は補語を省略することができる。しかし日本語の他動詞を使う間接受身はほぼ省略できない。

(29) a. Dia kecopetan ponsel di bus.

(彼女はバスでケータイをスラれてしまった)

b. Dia kecopetan di bus.

(彼女はバスでスラれてしまった)

(30) a. Semalam Pak Banu kecurian mobil.

(昨夜バヌさんは車を盗まれてしまった)

b. Semalam Pak Banu kecurian.

(* 昨夜バヌさんは盗まれてしまった)

⑥インドネシア語の ke-an 構文の主語に現れる名詞は有生名詞の被動者だけでなく、被動者の持ち物などの無生もある。一方、日本語の持ち主の文では持ち物が主語にならない。

(31) Celananya ketumpahan kopi. (Hasan Alwi, 2003)

ズボン彼/彼女 ke-こぼされた-an コーヒー

*彼のズボンはコーヒーをこぼされた。

(32) Motor saya kehabisan bensin.

バイク 私 ke-なくなる-an ガソリン

*私のバイクはガソリンになくなられた。

6. おわりに

本研究で明らかにした点は次の通りである。

1. インドネシア語の di- 構文は日本語の直接受身と共通性がある。
2. 他動詞を使う ter- 構文は受動態となり、三つの意味（無意識、可能、完了）を持っているが、自動詞と形容詞を使う ter- 構文は自発、感情を表すので、受動態ではない。
3. 日本語の間接受身とインドネシア語の ke- -an 構文は共通点があるが、相違点もある。
4. インドネシア語の ke- -an 構文では他動詞と自動詞が使えるけれども、数が限られている。

参考文献

- ドミニクスバタオネ 近藤由美 (2003)『インドネシア語講座 初級』 めこん
松岡 邦夫、(1990)『インドネシア語文法研究』 大学書林
森村茂 (1992)「インドネシア語に見られる間接受動的表現」
『大阪外国語大学論集8号』 pp.19-30

湯浅明子 (2002)『『第三者の受身』は、なぜ『被害の意』を含意するのかー日本語、インドネシア語対照に基づくー考察ー』『日本語学会第124回大会予稿集』pp.214-219

ルツアナワティ(1998)「インドネシア語における種々の受身構文について」『STUDIUM』大阪外国語大学大学院生協議会 .pp.99-109

Alwi, Hasan., et al. (2003) Tata Bahasa Baku Bahasa Indonesia. Jakarta : Balai Pustaka.

Badudu,J.S (1985) Pelik-Pelik Bahasa Indonesia. Bandung : CV Pustaka Prima.

Chaer, Abdul (2006) Tata Bahasa Praktis Bahasa Indonesia. Jakarta : Rineka Cipta.

Keraf, Gorys (1980) Tata Bahasa Indonesia Untuk SLA. Flores : Nusa Indah.

Ramlan, M (2001) Morfologi Suatu Tinjauan Deskriptif. Yogyakarta : CV Karyono.

Sandyosaka「インドネシア語を最初から文法」(<http://kelapa muda.blog72.fc2.com>)

Sitindaon, Gustaf (1984) Pengantar Linguistik Dan Tata Bahasa Indonesia.

Bandung : Pustaka Prima.

Yasin, Sulchan (1988) Tinjauan Deskriptif Seputar Morfologi. Surabaya : Usaha Nasional.